慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小学校低学年の子どもを持つ親が鑑賞する映画作品を選択するプロセスについてのモデル構築
Sub Title	Interpretive model for cinema appreciation process at home between parents and schoolchildren in the lower grades
Author	長崎, 直樹(Nagasaki, Naoki) 中村, 伊知哉(Nakamura, Ichiya)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	本研究の目的は、小学校低学年の子どもを持つ親が鑑賞する映画作品を選択するプロセスについて説明モデルを提示することである。 家庭での映画鑑賞については、視聴時間の実態など、数多くの調査が行われているが、親が子どもに見せる映画作品をなぜどのように選んでいるのかについて分析した研究はほとんど行われていない。 本研究は、木下（2003）の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいて説明モデルを提示している。説明モデルは、新たに次の点を明らかにしている。一つは、親子で鑑賞する傾向が高まる時期と子だけで鑑賞する傾向が高まる時期は、子の映像鑑賞力の発達段階に応じて交互に繰り返されるというものである。親がなぜ鑑賞方針を変えるのか、どのような体験をしているのかについても仮説を提示している。
Notes	修士学位論文. 2010年度メディアデザイン学 第102号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002010-0102

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文

小学校低学年の子どもを持つ親が鑑賞する映画作品を選択するプロセスについてのモデル構築

長崎 直樹

2011年2月10日

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科

A Master's Thesis
submitted to Graduate School of Media Design,
Keio University
in partial fulfillment of the requirements for the degree of
MASTER of MediaDesign

Naoki Nagasaki

Thesis Committee：
Professor Ichiya Nakamura （Supervisor）
Professor Susumu Furukawa （Co-supervisor）
Professor Naohisa Ohta （Co-supervisor）

修士論文2010年度（平成22年度）

小学校低学年の子どもを持つ親が鑑賞する映画作品を選択するプロセスについてのモデル構築[1]

論文要旨

本研究の目的は、小学校低学年の子どもを持つ親が鑑賞する映画作品を選択するプロセスについて説明モデルを提示することである。

家庭での映画鑑賞については、視聴時間の実態など、数多くの調査が行われているが、親が子どもに見せる映画作品をなぜどのように選んでいるのかについて分析した研究はほとんど行われていない。

本研究は、木下（2003）の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいて説明モデルを提示している。説明モデルは、新たに次の点を明らかにしている。一つは、親子で鑑賞する傾向が高まる時期と子だけで鑑賞する傾向が高まる時期は、子の映像鑑賞力の発達段階に応じて交互に繰り返されるというものである。親がなぜ鑑賞方針を変えるのか、どのような体験をしているのかについても仮説を提示している。

キーワード：
映画教育, 家族環境, 親子相互関係

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

長崎 直樹

[1] Master's Thesis, Graduate School of Media Design, Keio University, KMD 80935491, February 10, 2011

Abstract of Master's Thesis Academic Year 2010

Interpretive Model for Cinema Appreciation Process at Home between Parents and Schoolchildren in the Lower Grades [2]

Summary

The primary purpose of this study is to provide an interpretive model of cinema appreciation process at home for parents of schoolchildren in the lower grades. Compared to the amount of fact-finding surveys on at-home cinema environment surrounding schoolchildren, few studies indeed have been done to analyze how and why their parents select movies for them. The interpretive model generated based on Modified Grounded Theory Approach by Kinoshita (2003) has some original points. It first shows that parent-child appreciation and child-only appreciation are alternately stronger and weaker according to children's stage of development. It also indicates a possibility that parents make changes in their appreciation policy throughout the process.

Keywords:
Cinema Education, Family Environment, Parent-Child Interaction

Keio University Graduate School of Media Design

Naoki Nagasaki

[2] Master's Thesis, Graduate School of Media Design, Keio University, KMD 80935491, February 10, 2011